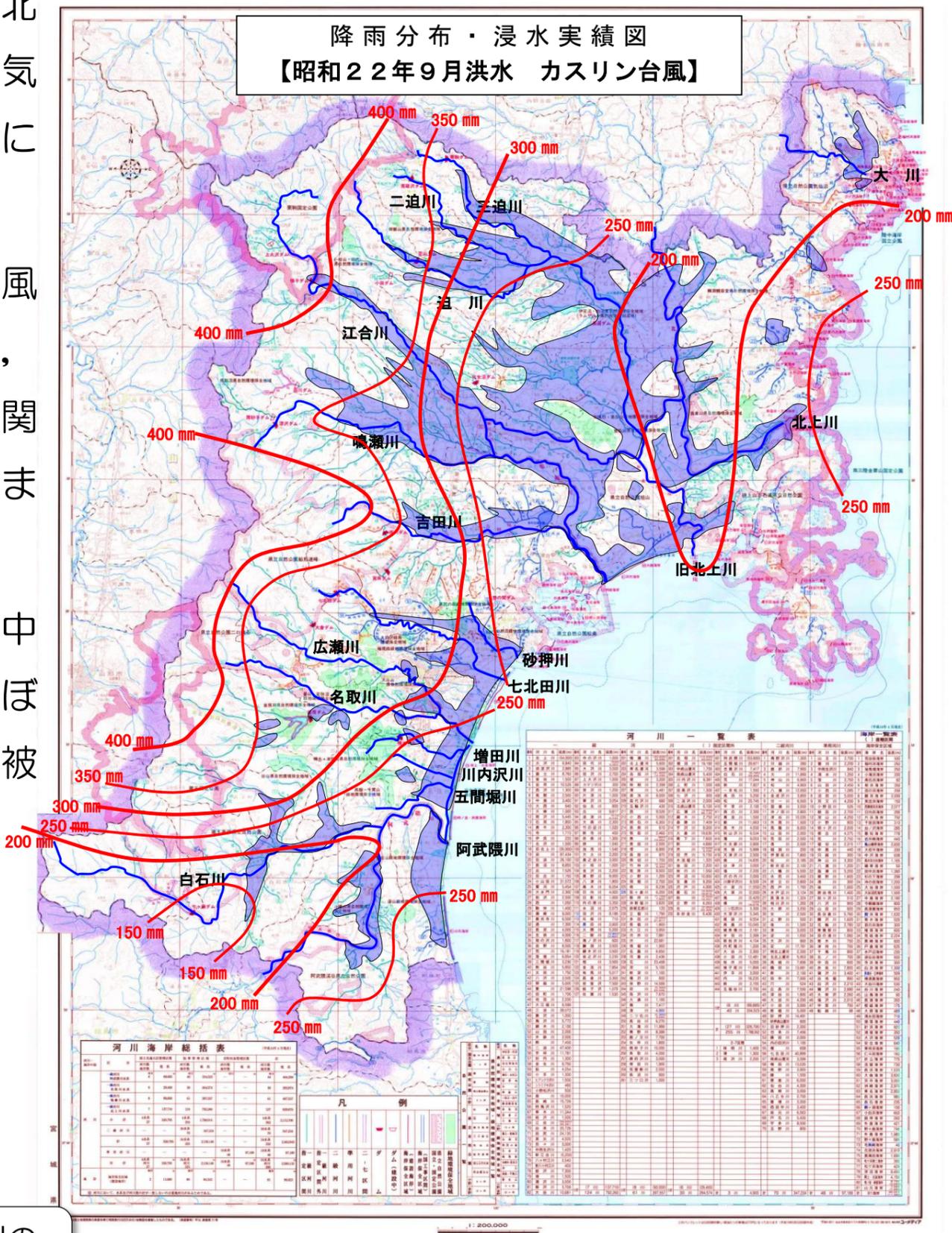


昭和22年9月は、秋田県沖から北海道中部に至る弱い温暖前線と副低気圧の影響を受け、6日頃から断続的に雨が降り続く状況にありました。

そして、小笠原方面に発生した台風（カスリン台風）が北上するに伴い、副低気圧を吸収する形で巨大化し、関東から東北地方に多量の雨を降らせました。

本県では、北上川の大泉堤防（旧中田町）が破堤し、現在の登米市のほぼ全域にわたり浸水するなど、甚大な被害が生じました。



あまりの水勢に、夏川の堤防が破堤（旧中田町）



登米町役場前（旧登米町）の浸水状況

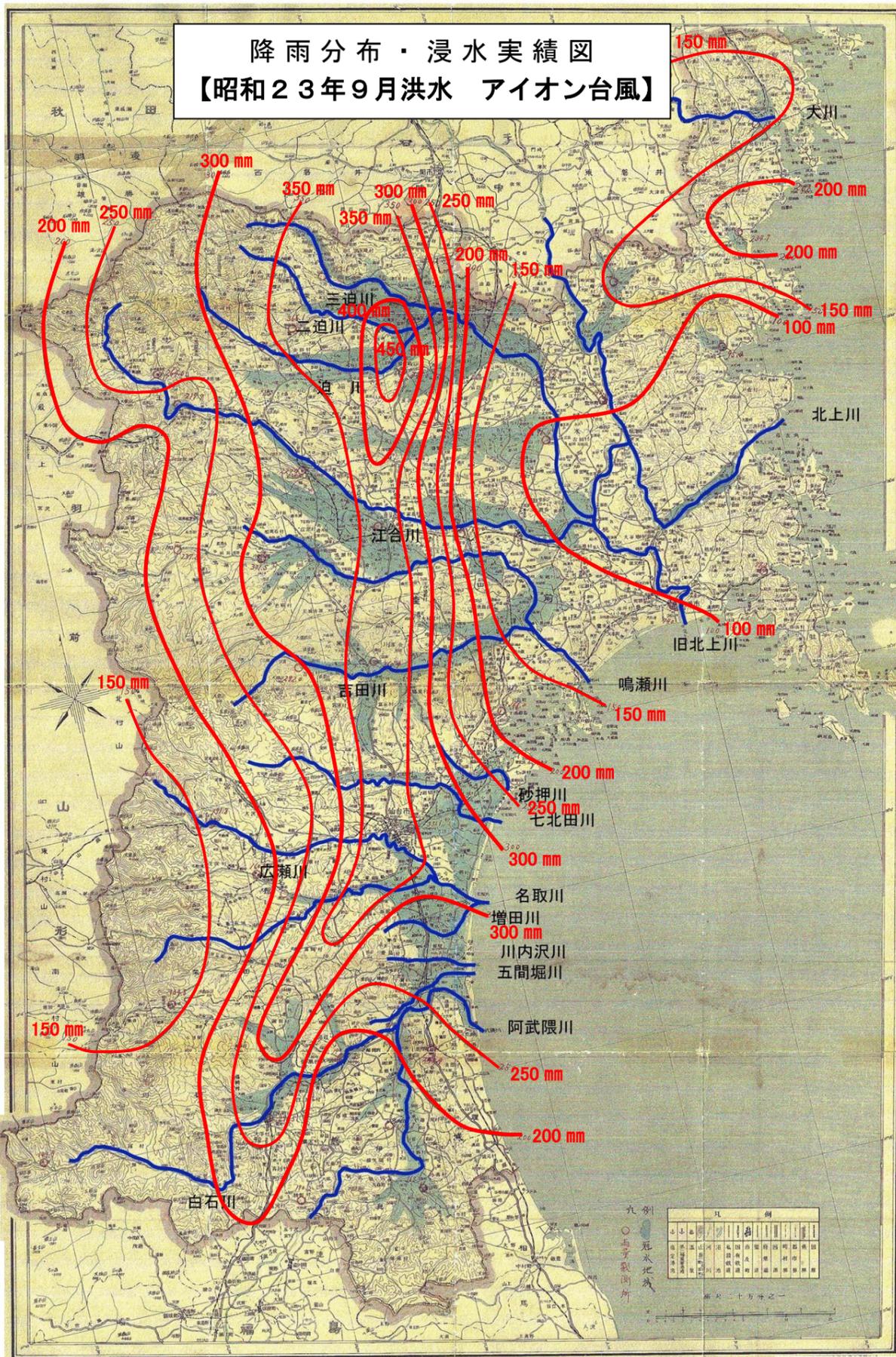


北上川・大泉堤防の復旧作業（旧中田町）

昭和23年9月洪水は、東北地方に移動しつつあった寒冷前線と、アイオン台風に伴う温暖前線が仙台付近で衝突し、激しい上昇気流を巻き起こして豪雨をもたらしたものです。

築館観測所の降雨は、最大1時間雨量109.4ミリ、最大4時間雨量は308.7ミリにもなり、従来の東北地方の記録を破る大雨でした。

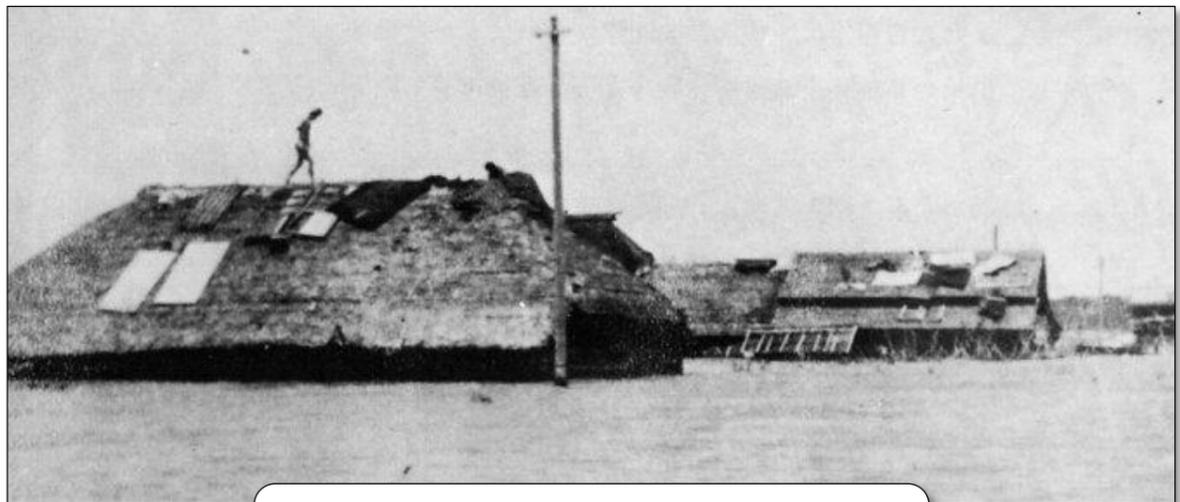
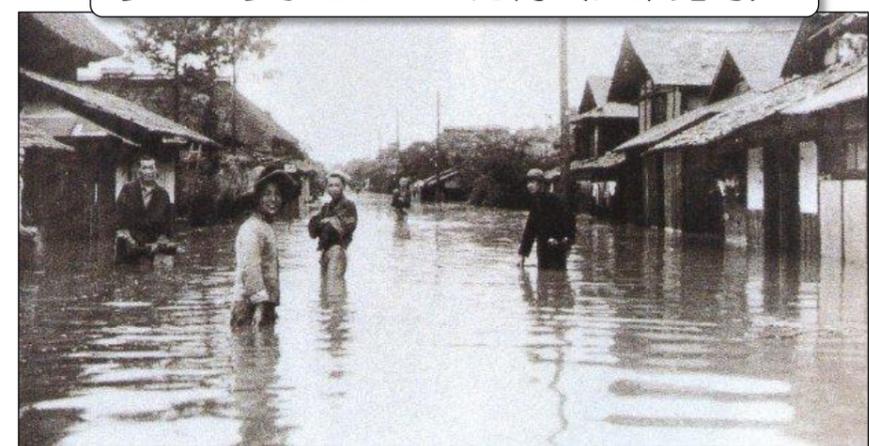
この大雨によって、鳴瀬川上流部、中新田地区の堤防が破堤したほか、吉田川中流部の両岸が破堤するなど、本県では昭和22年9月洪水（カスリン台風）の被害をしのぐ、最も記録的な大雨の一つとなりました。



迫川の水の流れは速く、曲がりくねって  
いて洪水が起こりやすい（旧若柳町）



すっかり水につかった街（旧築館町）



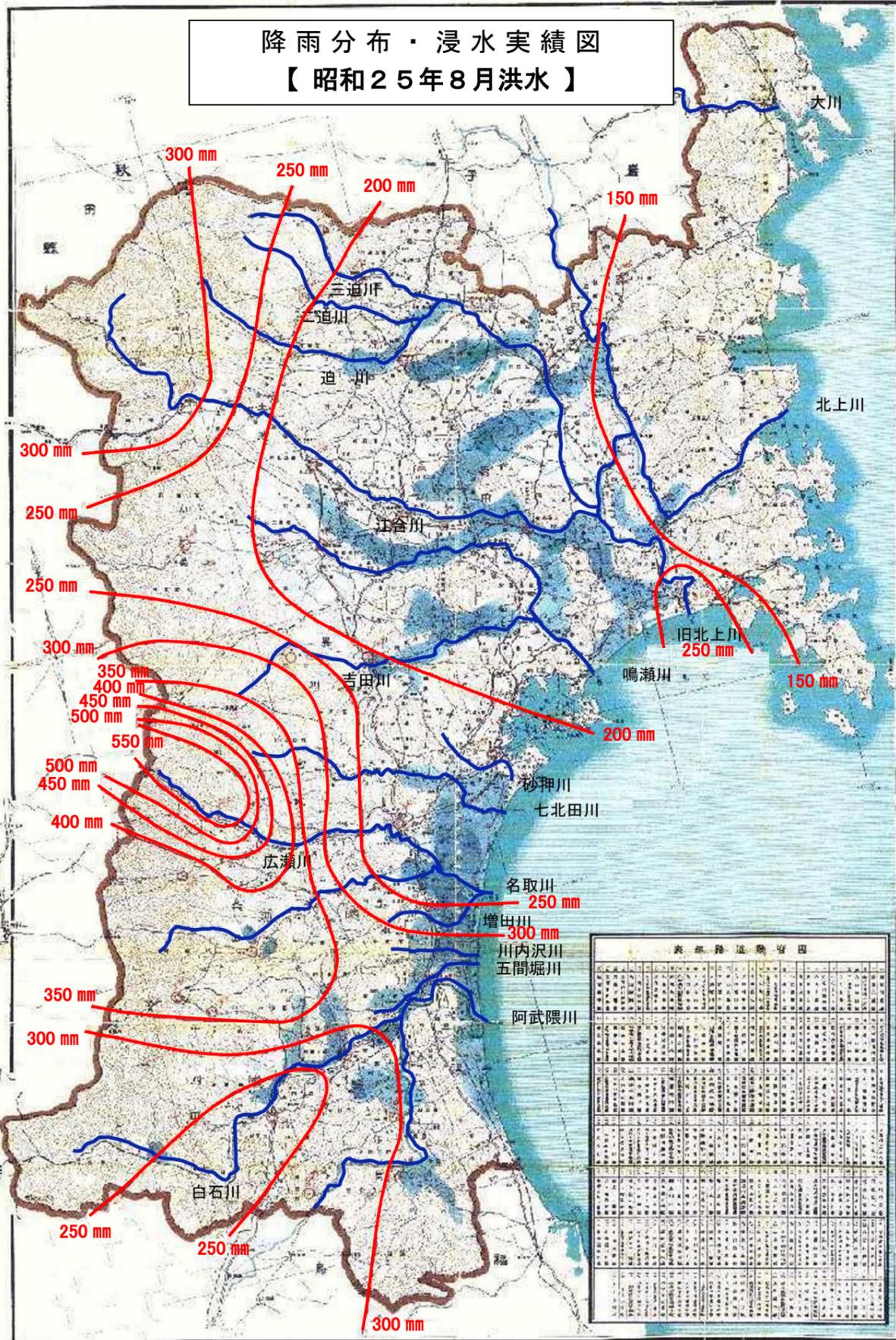
吉田川の破堤により軒下まで浸水  
した集落（旧鹿島台町志田谷地）

昭和25年8月洪水は、熱帯性低気圧に伴い流入した温暖な空気が、東北地方で寒気団と衝突したことで、7月31日～8月6日にわたる長雨となったものです。

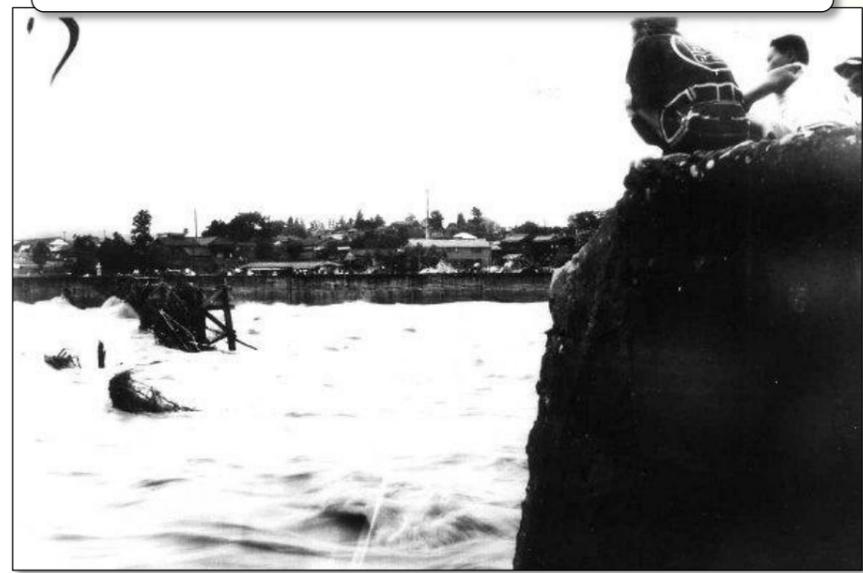
名取川流域の笹谷や作並といった山地部の日雨量はそれぞれ380ミリ、396ミリを記録し、平地の仙台においても168ミリを記録しました。

また、8月1日から8月5日までの連続雨量は、山地部では軒並み400ミリを超え、笹谷では555ミリにも達しました。

この豪雨により、名取川、広瀬川、多田川、吉田川などが破堤し、大きな被害をもたらしました。



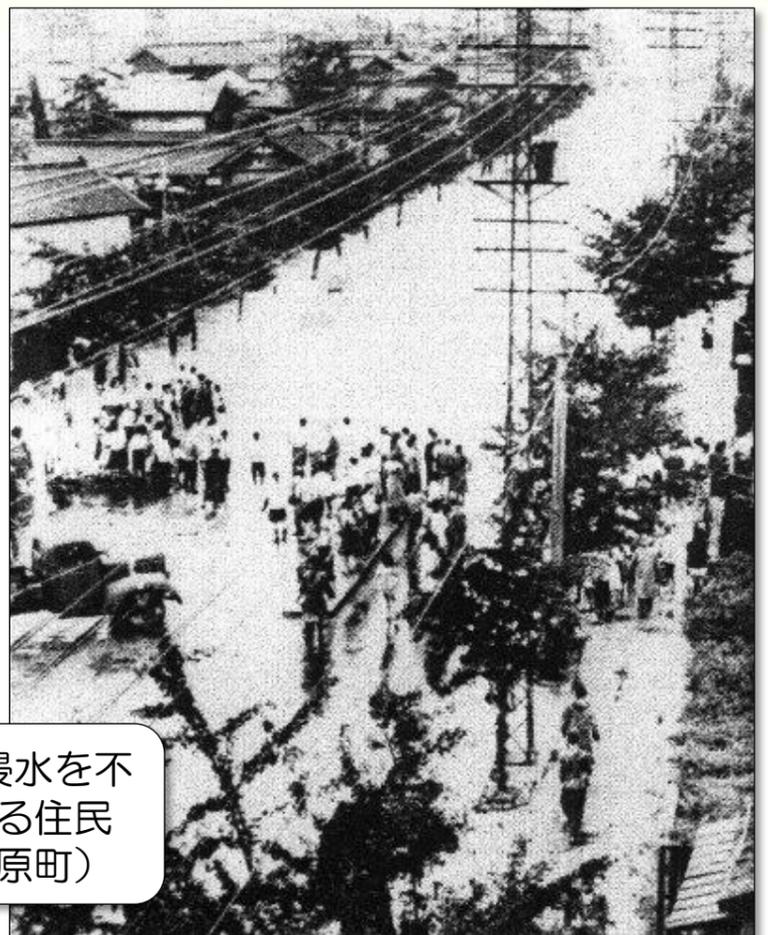
濁流に流された評定河原橋（仙台市花壇）



泥海に浮かぶ民家（仙台市宮沢橋付近）



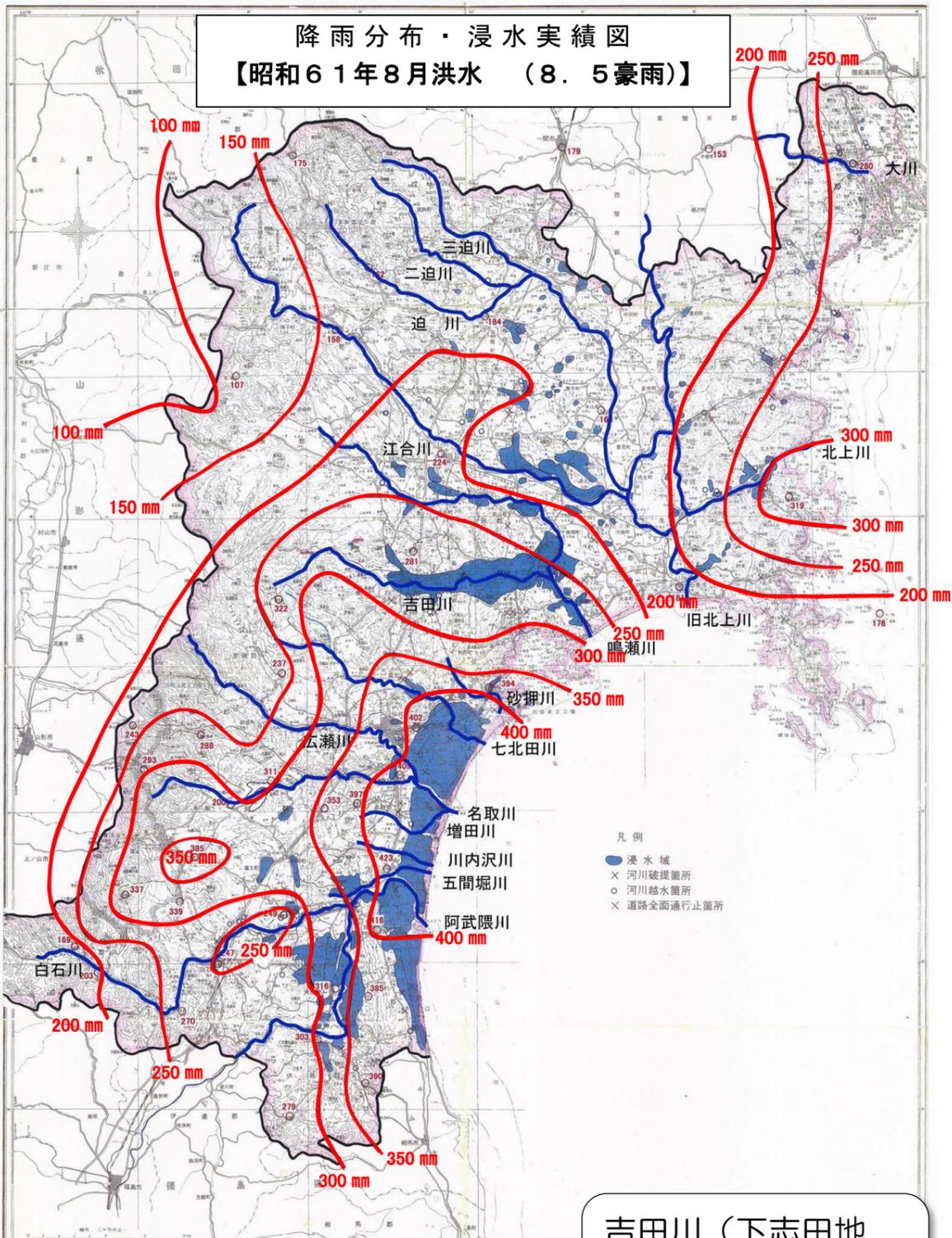
市電通りの浸水を不安気に見守る住民（仙台市河原町）



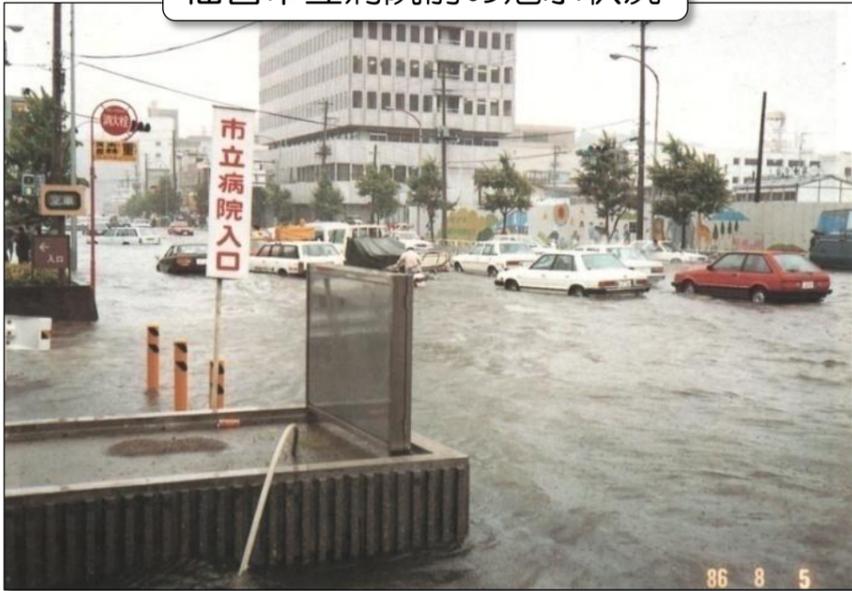
昭和61年8月に発生した台風10号は、沿岸部を中心に400ミリを超える降雨をもたらしました。

仙台市における連続雨量402ミリは、昭和23年アイオン台風時の351ミリを上回るもので、明治21年からの観測史上最大となり、約200年に一度の規模の大雨と推定されています。

この豪雨による河川の被害は、県中南部および三陸沿岸部を中心に、7河川11箇所で破堤し、99河川で越水するなど、甚大な被害をもたらしました。その被害件数は、県と市町村の管理する河川で1,724件、総被害額は151億円に上りました。



仙台市立病院前の冠水状況



吉田川（下志田地区）の破堤箇所と、堤防上に避難した車



軒下まで浸水した家屋



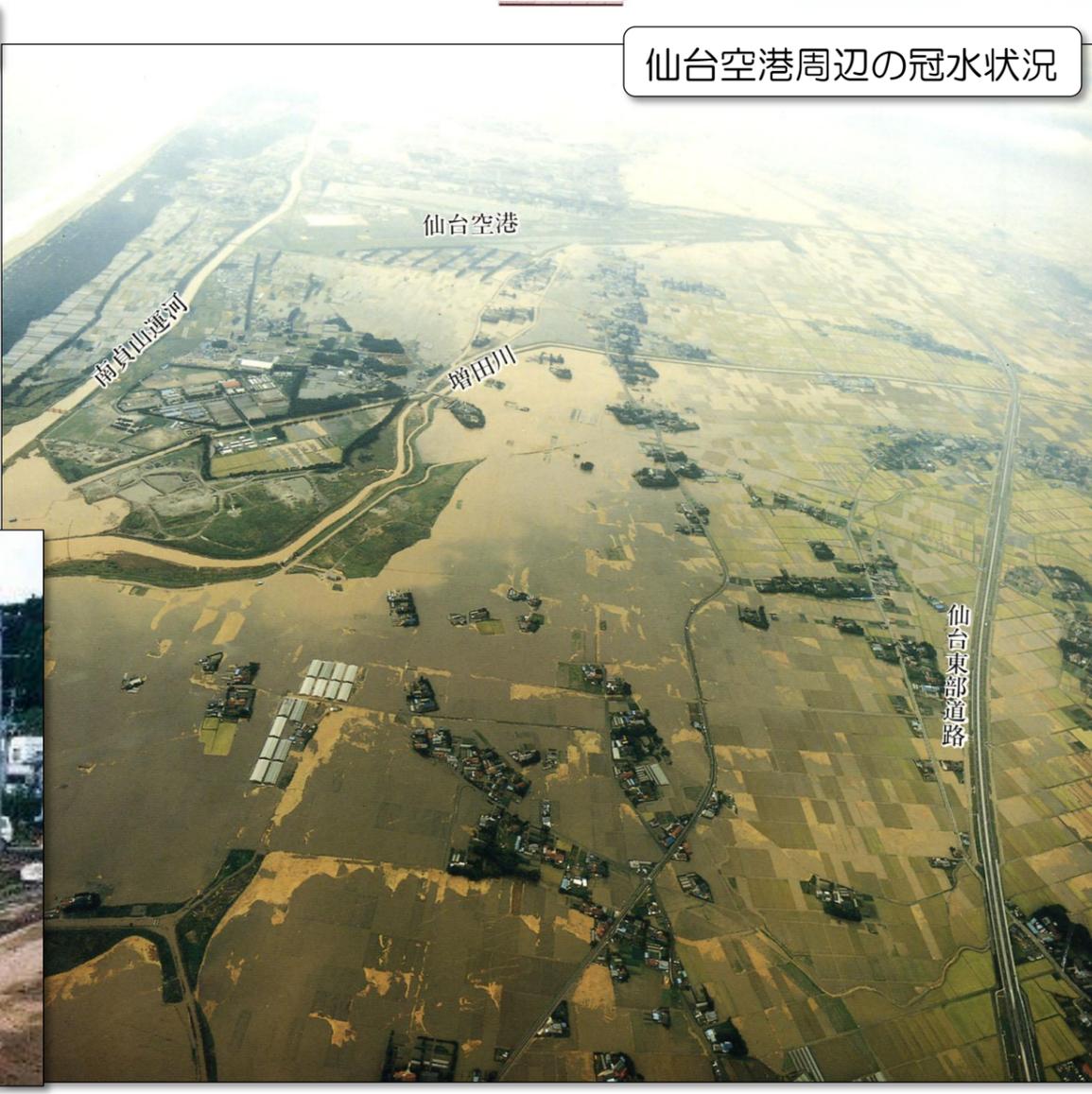
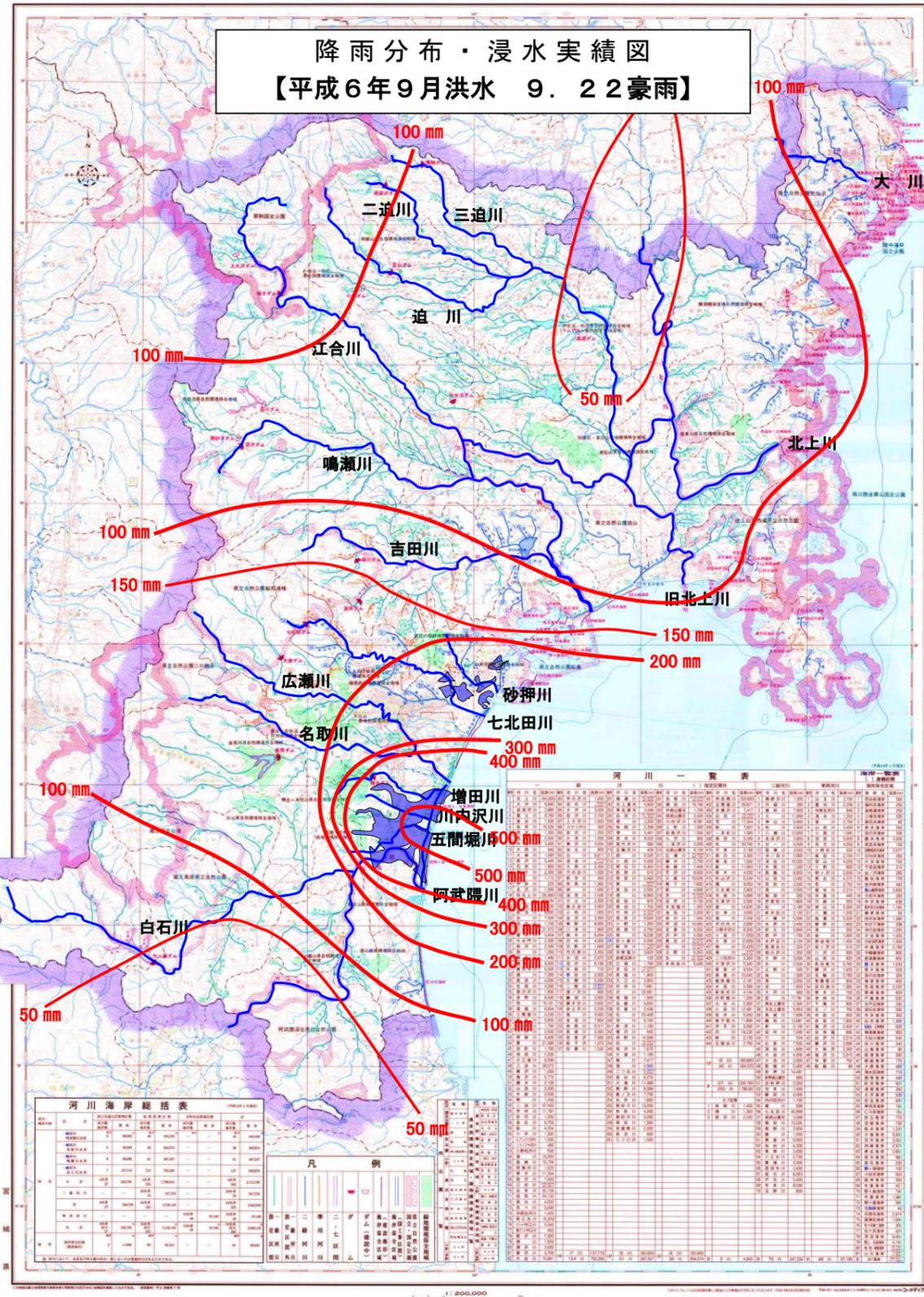
内水氾濫状況  
（国道45号苦竹インター西側より望む）



平成6年9月22日、停滞した積乱雲の影響により、岩沼市から多賀城市にわたる仙台都市圏東部の低平地を中心に、雷を伴う集中豪雨が襲い、最大1時間雨量は多賀城で132ミリ、樽水（名取市）でも84ミリに上りました。

この雨により、名取市・岩沼市を中心に多くの河川がはん濫し、河川や道路等の公共土木施設被害、住宅浸水、農作物被害など、総額246億円に及ぶ甚大な被害が生じました。

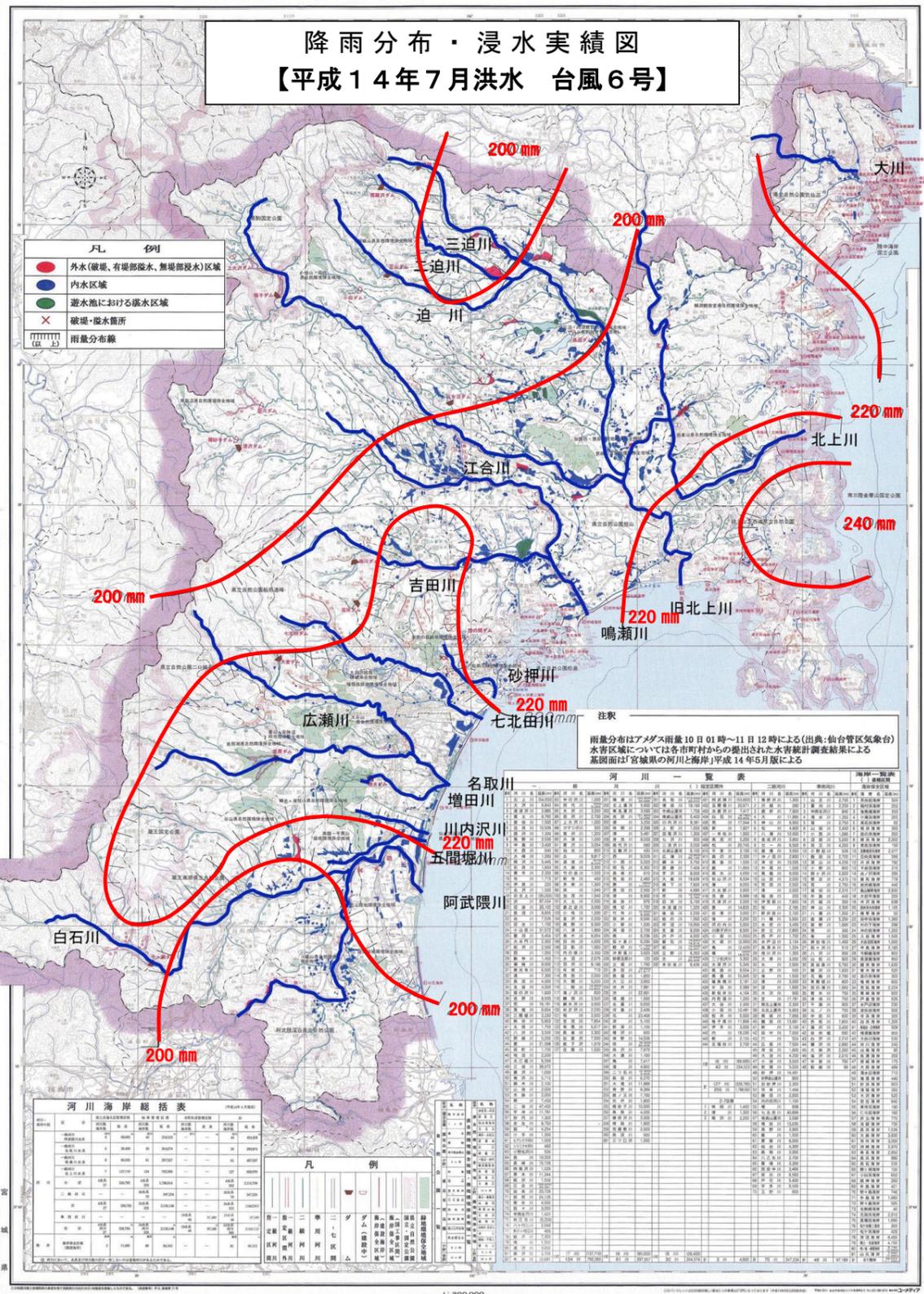
総雨量が515ミリに達した仙台空港は水没し、増田川上流の樽水ダムにおいても、ダム計画を越える総雨量477ミリ（約180年に一度の規模）を記録したことからダムが満水となり、下流域も大きな水害となりました。



平成14年7月、非常に強い台風6号が太平洋沿岸を北上し、11日早朝には宮城県に最も接近しました。

この台風の接近と東北地方に停滞していた梅雨前線の活発化の影響により、県内全域で200ミリ以上の降雨が観測されました。

この豪雨で県内各地の河川が増水し、5河川8箇所で破堤、304箇所以上で堤防越水、この他河川水位の上昇に伴う排水不良による内水氾濫が広範囲で生じ、3,400棟以上が浸水するなど、大きな被害が生じました。(被害総額約164億円)



田町川 破堤状況 (旧若柳町有賀)



黄牛川 越水状況 (旧津山町横山)



川内沢川 越水状況 (名取市宮下)



新川 破堤状況 (村田町小泉)

東日本大震災の傷跡がまだ深く残る平成23年9月、静岡県付近より上陸した台風15号は、強い勢力を保ったまま、関東から東北地方へと進みました。

本州に停滞していた前線が台風により活発化し、台風の接近した21日夜には非常に激しい雨となりました。

降り始めからの総雨量は、石巻市雄勝で532.5ミリ、女川で452.5ミリ、名取で332.0ミリとなるなど、記録的な大雨となり、台風接近と満潮が重なったため、鮎川では標高90センチを超える潮位の高潮となりました。

これらにより、七北田川や五間堀川では、震災で応急復旧していた箇所が再び破堤し、女川では越水や決壊が発生した他、広域に地盤沈下した低地の浸水が広範囲に発生しました。

